

平成 24 年 8 月 2 日

テクノクリート/施工研究会
事務局

テクノショットについて (Q&A 集)

1. 本工法はどういった工法ですか？

⇒テクノショット工法は流動性、耐久性に優れた特殊モルタルに硬化促進剤を圧縮空気とともに先端で混合する湿式吹きつけ工法です。

2. 特長は何ですか？

⇒上記の施工システムにより普通タイプは長距離圧送を可能（～100m）とし、吐出量の向上、厚付け性に優れ、作業効率が向上します。また、急硬タイプは初期強度発現性が良いためマイナス環境下（～-10℃）でも使用でき、初期凍害を防止します。

3. 従来のポリマーセメントモルタルとの違いは何ですか？

⇒従来のポリマーセメントモルタルはポリマーを添加することにより耐久性は向上しますが、ポリマーを添加することによって粘性が上がるため

- ① 練り混ぜを十分に行わなければならない
- ② モルタルの吐出負荷が大きいことから吹付け箇所から 30m 以下の場所にポンプを設置しなければならない等

施工上工夫が必要な場合があります。

本工法は流動性の良いノンポリマー系の特殊モルタルに硬化促進剤を先端混合するシステムのため、長距離圧送を可能とし、吐出量の向上や養生時間の短縮（～普通タイプにて次層吹付けまで養生約 2～3 時間程度）が図れ、工期短縮等施工効率が上がります。

4. ノンポリマー系の材料であれば耐久性が落ちるのでは？

⇒標準使用配合量（1,950 kg/m³）を上げ、比重を重くし、モルタルを緻密化させています。緻密化させることにより高強度、耐久性を向上させ、ポリマーセメント並の耐久性を確保しています。塩化物イオン浸透性についてはむしろポリマーセメントモルタルより優れる傾向です。

5. 比重が重くなれば厚付け性が低減、価格が高くなるのでは？

⇒特殊な硬化促進剤を添加することにより従来のポリマーセメントモルタルより厚付け性は向上します。

(従来 PCM: 側壁 : ~50mm/1層、天井面 : ~30mm/1層 程度)。

(テクノショット: 側壁 : ~100mm/1層、天井面 : ~50mm/1層)。

効率が良いのでトータル材工価格としてもポリマーセメントモルタルより安くすることができます。(但し施工費は条件にもよります)

6. 実績はあるの？

⇒2004 年以降民間工場、道路関係等全国 20 件以上あります。マイナス環境下で施工した実績もあります。現状瑕疵も出ていません。

7. 誰でも施工できるの？施工体制は？

⇒テクノクリート/施工研究会専用工法であり、会員による施工体制を確立しています。

8. どういった箇所に適するの？

⇒ポンプが近くまで持ち込めない、規制がある、寒冷地等施工条件が限られた箇所や冬場の寒冷地での施工等に検討できます。また、1層当り最大側壁で 100mm、天井面で 50mm まで厚付けが可能ですので塩害劣化した栈橋コンクリートの大規模断面修復等型枠グラウト工法の代換えや、犠牲陽極材「ガルバシールド F」を併用する等塩害環境下の延命対策や予防保全等もご提案できます。

9. その他特長は？

⇒ノンポリマー系のため硬化体としての溶出分が少なく、環境低減性に優れます。

以 上